

## 海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2022/02/03 ～2022/04/05 )

### 1. 勉学の状況

私が通っている成均館大学（以下 SKKU）は、2月21日から春学期が始まります。韓国はコロナの感染者数が日本よりも多く、1日に20万人から40万人です。千葉大学では対面授業よりもオンライン授業の方が多いため、韓国でも対面授業は少ないのかなあと残念に思っていました。週4で大学に通っています。

私が履修した授業は交換留学生のための語学の授業(火曜日と木曜日に3時間ずつ)、専攻の授業2つ(月曜日と水曜日の1.5時間ずつと、木曜日のオンライン授業3時間)の3つです。ターム制ではなく、全ての学部の授業は週2×15週間行われるので、そのリズムに慣れることが大変でした。また履修登録も難しく、SKKU独自のプラットフォームを理解することが難しく(説明は韓国語または英語)、授業の登録はまさかの早い者勝ち。私はのんびりと登録を進めていたので、取りたかった人気の授業はすでに上限人数に達してしまい取れませんでした。私は交換留学生には開かれていない、現地学生が受けている専攻授業が取りたかったため、教授に韓国語の能力と熱意をアピールして履修を認めていただきました。

	월	화	수	목	금
9:00-10:15			웹툰문예학	한국대중문화	
10:30-11:45	웹툰문예학			론	
12:00-13:15					
13:30-14:45					
15:00-16:15					
16:30-17:45		고급한국어		고급한국어	

語学の授業はレベル別に分かれており、私は TOPIK5 級を日本で取得した状態で渡韓したため、一番上の韓国語の授業を取りました。語学堂の4級レベルの内容らしく正直簡単ですが、世界中から来た留学生仲間と英語や韓国語で会話することが楽しいです。韓国語ネイティブの学生と受ける専攻の授業では自分の韓国語能力に自信を失いそうだったので、やっぱり私韓国語できるじゃん!と思直せるいい時間です笑。

対面の専攻授業は25人ほどの少人数で行われており、主に教授の講義を聞くインプットが主な授業内容ですが、15週のうち、5人グループでの班別課題が2回、中間と期末の個人レポート提出があります。WEBTOONに関連した授業なのですが、専門用語や作品や作家の名前など、元々知識がないと理解ができず大変です。コロナのせいで教室では学生同士のおしゃべりは禁止されているため、現地学生と仲良くなるのが難しいです(班別課題は全てカカオトーク、コロナに感染する学生もいてなかなか全員が揃いません)。オンラインの授業では学生同士顔も知らないため、もっと難しいです。

SKKU がいい大学だからなのか、韓国はみんなそんなのかわかりませんが、中間考査に大学も学生もかなり力を入れている印象です。大学の学生団体から、中間試験の応援キットが送られ、写真のような間食と大学近くのスタディカフェ(勉強するための静かなカフェ)の割引券などが無料で提供されます。

中間期間になると大学図書館や大学周辺のカフェは勉強している学生でいっぱいです。何よ

り、中間前の3週間サークルがなくなることが高校時代に戻ったようで驚きでした。千葉大に比べて課題が多いようには特に感じませんが、現地学生に引っ張られて私も勉強を頑張っています。



(中間応援キットとその中身)

## 2. 生活の状況

私の韓国生活は隔離から始まりました。入国してから7日間の隔離、2回のPCR検査を経てやっと韓国の街を歩くことができました。しかし、外出できるようになっても自由にどこでも行けるわけではなく、マートやカフェに行くにも、ワクチン接種証明と紐づけられた二次元バーコードが必要で、それは外国人登録証がないと発行できません。コロナの影響で通常すぐ発行されるはずが3週間かかり、その間ずっと人権がないように感じながら生活していました。韓国についてからの1ヶ月は外国人登録証を申請する、証明写真を撮る、3回目のワクチンを打つ、銀行口座を作るなど、大忙しであつという間に過ぎていきました。

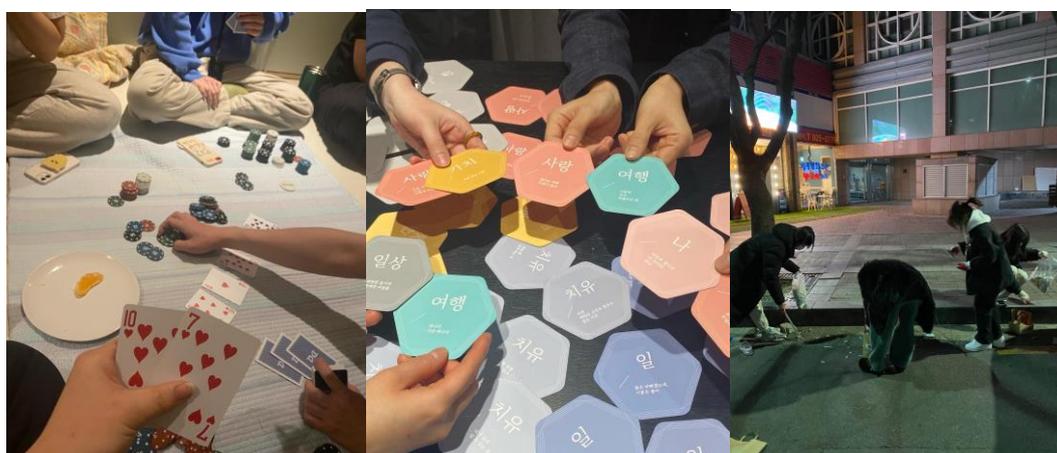
寮ではなく、大学から電車とバスで40分ほど離れている場所に住んでいます。留学生や日本人が少ない環境、そしてコミュニティが広がるような家がよかったため、ほとんどが韓国人の大人で月に5回ほどソーシャルクラブがあるコーリビングハウスに入居しました。ホテルを改造して作った家だそうで、地下にはジムやヨガルーム、図書館、24時間使えるワーキングスペースがあり、オンライン授業は主にそこで受けています。二人部屋で中国人のルームメイトと英語でコミュニケーションを取りつつ生活しています。共同生活ですが、施設は綺麗ですし、特に問題なく過ごしています。それまで留学生仲間の同年代の日本人や外国人とはたくさん友達になれたのですが、韓国の方とお話したいと思い、集まりにたくさん参加しています。これまでカードゲームや呑김(チュプキン)という、日本でいうPloggingのような運動をしながらゴミを拾う活動に参加したりしました。年齢も職業もさまざまな多くの人と関わって楽しいです。

サークルはテキョンという韓国の伝統スポーツと、ダンスに所属しています。テキョンには韓国学生だけでなく、留学生も多くいるため、英語を話すことが必要です。韓国に来て、韓国語はもちろん、英語の重要性にもより一層気付かされました。欧州からきた学生は当たり前のように英語を話しますし、韓国の学生も英語が堪能な人が多いです。私も国際教養学部なので英語は頑張ってきたつもりでしたが、もっと使える英語を身につけたいと思いました。

コロナ禍ではありますが、大学のイベントもたくさんあります。留学生のためのオリエンテーション、キャンパスツアー、新入生歓迎会、春の文化祭などです。特に文化祭では、キッチンカーで食べ物を買って食べながら学生のダンスやバンドの出し物を見ることができました。夜には野外の広場に座ってお酒を飲みながらみんなで映画を見ました。

政治的に日韓関係があまりよくないこともあり、日本人であるために嫌な思いをすることもあるかと構えていましたが、この2ヶ月間全く嫌な経験をするのではなく、むしろ暖かく迎え入れてくれます。日本から来たと言うと、「なんでそんな韓国語上手なの?」「コロナが終われば日本にいきたい」と言っていたことが多く、また日本についてたくさん質問もしてくれます。同年代だけでなく、飲食店のおじさんおばさんまで皆優しいです。

生活していて一番驚いたのが交通費の安さです。バスや電車は2000ウォン（約200円）あればソウル市内どこにでもいけますし、タクシーはほとんど使いませんが、初乗りが2200ウォン（約220円）と日本に比べて安いです。一方で野菜や果物は高く、料理するより学食や飲食店で食べた方が安く済みます。車だけでなくバスや自転車の運転が荒く轢かれそうになる、トイレや施設が汚いなど日本の生活に慣れていると困ることもありますが、言葉の壁も特に感じず毎日楽しく生活しています。4月後半から飲食店の営業時間や野外でのマスクの着用の義務が緩和されるなど、コロナの拡大が心配ですが、可能な限り韓国での生活を堪能したいと思います。



(Co-living House でのカードゲームと줍깅の様子)